

第260回研究科委員会・第372回教員会議 議事要録

日 時：令和6年7月10日（水） 研究科委員会 12：50～13：05
／教員会議 13：50～15：40

場 所：後援募金記念棟 会議室1-3

議 題

◆研究科委員会◆

[審議事項]

1. 教務委員会

(1) 令和6年度3月修了修士・博士論文最終試験の日程について
資料1に基づき説明があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

[報告事項]

1. 教務委員会

(1) 令和6年度9月期修士論文の審査及び最終試験の取り下げについて
資料2に基づき説明があった。1名が取り下げとなり、9月期の審査及び最終試験の対象者はいなくなった。

2. 学生生活委員会

(1) 大学院一般枠入学料免除選考結果について
プロジェクター投影に基づき説明があった。『入学料免除（大学院・一般枠）』は2名が半額免除となり、4名が不許可となった。

(2) 学生表彰（9月卒業・修了予定者）について
資料3に基づき説明があった。受付期間は7月2日から8月22日までとなっている。

研究科長から、全学運営会議の資料2について説明があった。F-REI 連携推進室の設置の説明があり、これはF-REI との連携協定に基づく対応であり、対外的な窓口になるとの付言があった。

研究科長から、13：30に科研費セミナーが開催されるとのアナウンスがあった。

◆教員会議◆

[審議事項]

1. 学類長

(1) クロスアポイントメント協定書の締結について
プロジェクター投影により説明があった。海洋研究開発機構から1名を特任教授としてクロスアポイントメント制度（エフォートは福島大学20%）で任用したい。経費は「経済産業省 廃炉・汚染水・処理水対策事業費補助金事業」で賄われる。人事委員会では確認済みである。特に質問はなく、提案通り承認された。

ここで、7月1日付け人事異動で理工学類支援室に着任した主任の挨拶があった。

(2) 教員の採用について
資料4に基づき説明があった。まず、学類長から、これまでの将来構想検討委員会や拡大人事委員会での検討状況の説明があった。それをもとに当該分野において、採用人事の内容について検討を依頼した。高度情報専門人材（以下、「高度情報」）や水素エネルギー総合研究所（以下、「水素研」）関係の人材についても検討してきた。最終的には人事委員会において人事計画調書を確認するとともに、学類長

名での学長への要望文書についても検討し、それらを提出した。正規教員45名を下回らないようにとの要望とともに、これまでの理工学類の実績を示している。大学改革に伴う学類ごとの教員数と学生数の規模感について、7月9日に教育研究院会議で提示された。2030（令和12）年度の新理工学部（仮称）の目標値は教員数が55名、学生定員が215名となっている。理工学類当初の教員数と比較すると不足しているが、ある程度は理工学類の要望を反映していると言える。A教授から、理工学類と食農学類が一緒になる計画は無くなったのかとの質問があった。学類長から、全学改革の提案自体は続いているとの返答があった。さらにA教授から、今回示されている数には役員（学長及び副学長等）の数も含まれているのかとの質問があり、学類長から将来のことではあるがそれも含まれている数であるとの返答があった。

7月9日開催の教育研究院会議の審議では、理工学類から要望した人事計画全てについては検討されなかったが、高度情報2名と水素研2名については認められた。評議員から、資料4-1を基に水素研の教員公募文書案について説明があった。水素研での採用は今年度予算で実施するため令和6年度中の採用を目指しており、他の採用人事とは異なる。D教授から、資料4-2に基づき情報理工学コース関係の教員2名の公募案の説明があった。応募締切日については、「締切前に公募を終了する場合があります」と付記している。学位取得見込者の応募を歓迎する記述も加えている。メカトロニクスの教員公募案については、B教授から資料4-3を基に説明があった。「センサ」というキーワードが入っている。C教授から、資料4-1の「再編」という言葉について、「予定」を付けたほうが良いとの指摘があった。また、資料4-2の記述についても質問があった。D教授から、コース名について返答があった。また、「音情報科学」についてはJREC掲載前に検討したいとの返答があった。「映像制作」についても加えた理由について説明があった。C教授から「映像制作」について再度質問があり、D教授からCGや画像処理との関係について返答があった。評議員から、学類のコース名は設置審を通ったので「予定」を付けていないとの説明があった。A教授からバイオ関係では人材が余っているので、情報系にも応募してくる可能性があるのでは、との指摘があった。D教授から、親和性の関係から無理と判断したとの返答があった。また、昨年度公募のキーワードから削除したものがあるとの付言があった。E教授から、情報の公募案について、教授を残している理由について質問があった。D教授から、若手を最優先しているが、全国レベルで人材が不足しているのでやむを得ず入れている、との返答があった。E教授から、分野の幅を広げたほうが良いとの指摘があり、D教授から状況について補足説明があった。学類長からも状況に応じて今後相談したいとの付言があった。F教授から、現時点で最も欲しい分野はどれかとの質問があった。D教授から、1行目からCGまでであるとの返答があった。F教授から、情報理工学コースでの今後の課題について指摘があった。他に質問等はなく、提案通り承認された。

2. 教務委員会

(1) 令和6年度非常勤講師計画について

資料5に基づき説明があった。10、11、37、49番について補足説明があった。特に質問はなく、提案通り承認された。

(2) 2025カリ生のコース所属要件及び研究室配属要件について

資料6に基づき説明があった。来年度の1年生から新カリになるための変更提案である。コース所属要件及び研究室配属要件については特に質問はなく、提案通り承認された。その後、教務委員長から4コース配属になった場合、2019カリ学生のコース所属特例措置の必要性について説明があった。前例として「専攻配属特例措置」の紹介もあった。教務委員会として、今回も同様の特例措置を設けたいとの提案である。学類長から、収容定員の考え方についての付言があり、留年生が増えると問題が大きくなるとの説明があった。C教授から、特例を実施した場合、実践科目の取得について確認があった。G教授から、前回の特例措置の場合に第2専攻に多くの学生が配属となったことが紹介され、学生の動向についての留意点が指摘された。教務委員長からコース配属に関する課題について返答があった。H教授から、今回は特例措置の方向性の提案なのか、具体案の提案なのかとの質問があった。教務委員長から、まだ詳細は詰めていないが、今回は基本的な方向性についての提案であるとの返答があった。H教授から昨年の学生の状況について補足があり、教務委員長からGPとGPAに関する返答があった。以上の審議を経て、方向性の提案が承認された。

3. 入試委員会

(1) 令和7年度編入学試験合否判定について

回収資料に基づき説明があった。志願者数1名、受験者数1名であったが、口述試験の結果不合格が提案された。特に質問はなく、提案通り承認された。I教授から、追加募集の有無について質問があり、入試委員長から経済経営学類の実績から追加募集はないとの返答があった。F教授から、近年編入学志願者が減ってきているので、今後方法を改善する考えがあるのかとの質問があった。入試委員長から、今後検討していきたいとの返答があり、学類長からは年度ごとの変動が大きく今年度は残念であったとの付言があった。

[報告事項]

1. 学類長

(1) 収容定員の増加に係る設置計画の審議結果について

資料7に基づき説明があった。6月26日付で「可」となり、収容定員の増加予定一覧表も紹介された。

(2) 2024年度委員会名簿の修正について

資料8に基づき説明があった。准教授1名が水素研の兼任教員に加わった。また、名称変更として「高度情報専門人材育成推進室」に修正した。

2. 教務委員会

(1) 第116回全学教務協議会について

(報告事項)

・国大協「自律的化学物質管理 教育プログラム」への対応について

資料9に基づき説明があった。今回文科省から、理工系だけではなく文系を含めて大学全体で実施するように指示があったためである。

・BYOD対応 学生PCに求めるスペック等の更新依頼について

資料10に基づき説明があった。人間発達文化学類以外は同じスペックとなった。

・令和5年度卒業時DP評価の集計結果について

資料11に基づき説明があった。理工学類教員の入力率は高く、さらに今回高くなった。他学類でも行政政策学類を除き入力率が向上した。

3. 学生生活委員会

(1) 入学料徴収猶予選考について

プロジェクター投影に基づき説明があった。『入学料徴収猶予』は1名が許可となった。

(2) 学生表彰(9月卒業・修了予定者)について

資料3に基づき説明があった。研究科委員会での説明と同じである。

4. 入試委員会

(1) 令和7年度入学試験の日程について

資料12に基づき説明があった。大学入学共通テストの追試験の日程と一般選抜の再試験の日程が確定した。

5. 附属図書館運営委員会

(1) 令和6年度電子資料の導入状況及びオープンアクセスをめぐる状況について

資料13に基づき説明があった。詳細は資料を確認してほしい。来年度の契約について検討する時期に

なっているので、使い勝手等の意見や要望を出してほしいとの依頼があった。オープンアクセスについても、本学の方針の紹介があった。さらに、2025年度から根拠データのオープンアクセスへの掲載が義務化される予定となっているとの説明があった。また、本学全体で年間3本のシュプリンガー社が出版するジャーナルへの掲載無料化が2024年4月から始まったことが紹介された。

6. 男女共同参画推進専門委員会

(1) 令和6年度後期研究支援員制度利用者の募集について
資料14に基づき説明があった。募集締切は8月22日(木)である。

7. 奨学寄附金等の受入について
奨学寄付金2件の受け入れが報告された。

その他として、J准教授から基盤教育2027ワーキンググループの報告があった。ほぼ毎週作業をしているが、提言までもう少し時間がかかる予定である。提案・意見等があればJ委員まで出してほしい。現時点で公式な資料は無い。

◆教育研究評議会◆

○第419回(6月21日-25日書面開催)報告

(1) 【報告】令和5年度の就職状況について
資料1-1に基づき説明があった。令和5年度の結果と傾向についての報告である。理工学類の就職率は98.8%であり、過去2年よりも高くなった。詳しくは資料を参照してほしい。

(2) 【報告】国立大学法人福島大学と矢祭町との包括連携協定の締結について
資料2に基づき説明があった。要請があったら協力をお願いしたい。

◆運営会議◆

○第200回(7月9日開催)報告

【議題】

(1) 【報告】令和6年度入試結果分析について
資料1に基づき説明があった。2023年度に比べて2024年度の志願者が減少している。宇都宮大学と茨城大学は志願倍率が増えているが、東北の地方国立大学は低下している。K准教授から、前期・後期別の分析結果はないのかと質問があった。L教授から、現在分析中であり後期になって出されるとの返答があった。

(2) 【報告】F-REI 連携推進室の設置について
すでに研究科委員会の最後に説明があったが、資料2に基づき説明があった。

(3) その他情報共有等
資料は無いが、学類長から大学改革セミナーが2日間にわたり8月に開催されるとの情報共有があった。山梨大学学長と文科省の課長が講演される。

最後に、教員親睦会のアナウンスがあった。